＜研究の構想＞

学校教育目標 **夢と希望をもち 未来にはばたく つばさっ子の育成**

仮説１の視点　言語活動の具体化

１　付けたい力の明確化

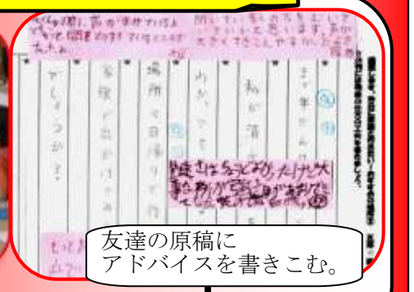
・教材文を１枚のシートにまとめ、繰り返し読みながら、場面の様子や、登場人物の人柄や行動などをとらえられるようにする。

・紹介文と推薦文の違いを理解させワークシートを活用して伝えたいことを明確にして構成できるようにする。

中心となる指導事項を重点的に指導する。

２　交流の場の相手意識・目的意識の明確化

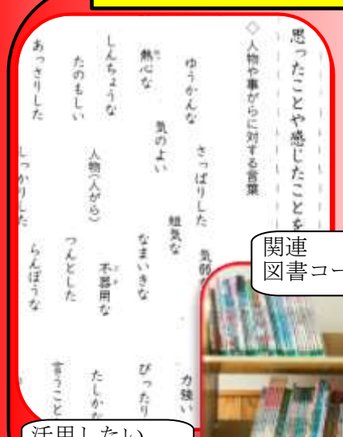
友達に発表を聞いてもらう。



友達の原稿にアドバイスを書きこむ。

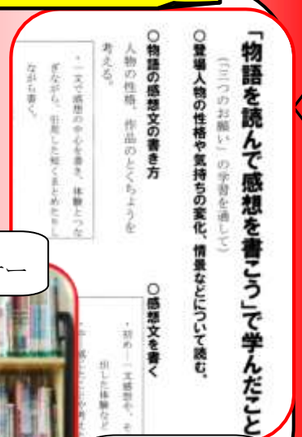
思いや考えの交流の場の活動を充実させる。

３　言語環境の整備と充実



活用したい語彙の一覧表

関連図書コーナー



既習の単元で身に付けた力の表

語彙や表現に役立つような言語環境を整える。

研究主題

自分の思いや考えをもち、生き生きと表現する児童の育成

・・・【児童主体の言語活動の具体化と充実を通して（国語科）】・・・

目指す児童像

- 学習や生活の中で、主体的に言語活動を行い、進んでコミュニケーションを図る子
- 相手の考えを受け止め、目的をもって自分の考えを表現し伝え合うことができる子
- 児童主体の言語活動を通して、自分の思いや考えをもつことができる子

授業実践

仮説２

子どもが「自ら学ぶ学習スタイル」を確立すれば、自ら表現したりコミュニケーションを図ったりすることができるだろう。

ワークシートの活用

人ひとりの学びの過程が見取りやすいワークシートを作成し、活用する。

仮説１

「付けたい力」を明確にし、「言語活動の具体化」を図れば、自分の思いや考えをもったり表現したりする国語の力を育成することができるだろう。

本校としてのコミュニケーション力

人間と人間との関係の中で、
互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う能力

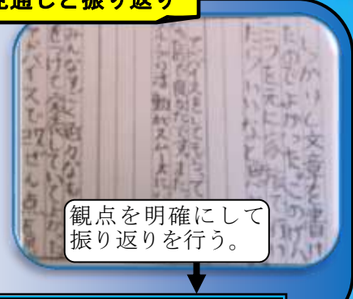
言語活動の充実　学習過程の重点化　系統性の重視　読書活動の重視

コミュニケーション活動を進める土台

仮説２の視点　自ら学ぶ学習スタイル

１　学習の見通しと振り返り

授業の流れを提示する。



観点を明確にして振り返りを行う。

主体的に授業に参加できるようにするとともに、自分の力をメタ認知できるようにする。

２　交流を重視した学習形態

個人

全体の中での司会・記録・計時

グループ

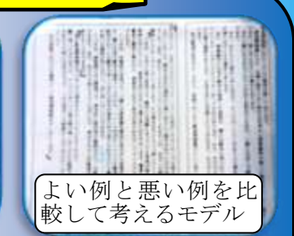
全体

グループ協議での司会・記録・計時

それぞれの場での、目的並びに司会等の役割分担を明確にすることで、互いの思いや考えを協働的に高めていけるようにする。

３　様式・モデル学習の重視

様式のポイントが明確なモデル



よい例と悪い例を比較して考えるモデル

学習のゴール（表現の仕方や・様式等）が理解できるようにし、身に付けた力を活用できるようにする。